

2023 年度 福祉助成金（活動助成） 成果報告書

ふりがな	かぞくぴあ・おかやま	
団体名	家族ぴあ・岡山	
代表者名	片岡公子	
連絡先	住所	岡山市北区田中 105 - 113
	TEL	090-1010 - 9608
	E-mail	Koukousi0616@outlook.jp
	URL	
設立年（西暦）	2022 年	
助成活動名	家族ぴあ活動を通して「家族が元気になる」ための学びの場とスキルの向上を目指して	
助成額	200000 円	
活動内容	目的	<p>平成 20 年より岡山で始まった「家族ぴあ活動」は、同じ悩みを持つ家族だからこそ分かり合え、安心して悩みを共有できる場として機能してきた。</p> <p>家族・本人共にそれぞれの生活を営むことができるようになるためには、家族・本人のリカバリーのプロセスを体験談から伝えるだけでなく、より正しい医療福祉の情報を学びあう必要があると考える。</p> <p>そして、より広く横とのつながりを求めていけたら、と考える。</p>
	内容	<p>★岡山家族相談活動のスキルアップ研修 年 1 回 12 月 16 日、元こらーる診療所の山本昌知医師（顧問）</p> <p>★ゲストを迎えての研修会 年 5 回 5 月 20 日、外山薫、精神保健福祉士。オープンダイアログ実践者。（一般社団法人）「わたげ」設立。当会に理解を示し、活動を共にしていけたらと今後を模索している。</p> <p>7 月 15 日、岡山子どもぴあ代表 S さん。家族のプライバシーを話すことに、まだ、抵抗感があると言う。 配偶者、きょうだいの立場の人への配慮を含めて考えさせられることが多かった。</p> <p>9 月 16 日、矢吹顕孝さん、真備町に暮らす当事者。幻聴さんに名前をつけて接するようになったら、幻聴さんの方もやさしくなり、今では、幻聴さんと結婚もし、子どももたくさんいると言う。 参加者からは、もっと話が聞きたいとの声があがった。</p> <p>11 月 18 日、岡部伸幸医師（岡山大学保健管理センター）。 「健康な家族が病気のひとを看るのは当たり前のことだと 31 年間思ってきた」が、</p>

	<p>今では家族活動について理解を示す。</p> <p>2月17日、木本達男精神保健福祉士（岡山市役所）。家族のつきぬ悩みに、「セルフ・コンパッション（自分への慈しみ）」という言葉を紹介して「先ずは、家族自身が自分を労わって」とねぎらった。</p> <p>合わせて、1年間に6回、きらめきプラザ7階で、ゲストを迎えての研修を、座談会形式で開催した。</p> <p>テーマを設けず、小人数で行うことで、参加者が対等な立ち位置で対話ができるように工夫してきた。茶菓もその一つで、必ず休憩を設け、雑談ができる雰囲気を大切にしている。</p> <p>3月16日は、対話力を高めていくために、これから連携していくことを考えている団体の研修会に参加した。</p>
<p>成果</p>	<p>従来の家族会では、悩みを打ち明けたり、対応の仕方について知恵をだしあったり、社会資源などについての情報交換をしてきた。</p> <p>その枠を広げたものをイメージして、家族だけではない、当事者、支援者、地域の人も巻き込みながら、家族会が弱かったこちらからの発信が、出来つつあると考える。</p> <p>最初は、漠然としたものであったが、形をとりつつあり、12月のゲスト、元こらーる診療所の山本昌知医師も「家族ぴあ・岡山」の活動に共感、顧問を引き受けていただいた。向かう方向は、同じ、生き辛さを抱えた誰もが生きやすい世の中だ。</p> <p>私たち、家族の体験を、尊重し、真摯に耳を傾けて、「みんな、同じ」と言われる医療者、福祉関係者などの存在と、向き合ってきたのも、「家族ぴあ・岡山」が発足したからこそと言える。</p> <p>また、家族の周辺に存在していたのにもかかわらず、見落としていた善意にも気づくことができるようになってきた。</p> <p>まだ、定かではないが、次年度には、つながりと、広がり、さらに、発展していくと、考える。</p> <p>座談会形式を取り入れたことが、とても貢献したと、考えている</p>
<p>今後の課題と対応策</p>	<p>1年間活動してみて、忙しさにかまけて、役員同士のコミュニケーションをとるのがおろそかになりがちだった。</p> <p>次年度は、研修会だけでなく、役員の連絡も密にしていきたい。そのために、奇数月の研修会に加えて、偶数月に役員会を開催していくことを考えている。</p> <p>2024年のゲストは、既に、全員決まっているので、3年目に入る2025年には、ゲストに山陽新聞などマスコミや、大学の学生など、私たちのあまり得意でない分野の人にも、座談会の仲間に入ってもらいたいと、考えている。</p> <p>さらには、精神疾患についての偏見の見直しのためにも、教育に携わる人たちとの関わりも視野に入れている。</p> <p>地に足をつけて、周りの人たちを、巻き込んでいきたいと考えて、地域のグループホーム2カ所の見学を計画した。</p> <p>今後は、ゲストに来てもらった人たち同士のつながりも、できていけばと、方策を考えているところだ。</p>



5月20日



7月15日



9月16日



11月18日

写真の提出



12月16日



2月17日